



No.83

(編集・発行) 東北大学病院NST広報係 NST通信・栄養ひろば担当 TEL: 7120 FAX: 7147

NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM

# 今回は「栄養投与ルートと当院採用濃厚流動食品の一例」です

## 栄養投与経路と経腸栄養剤の選択

食事は生命維持に欠かせない重要な行為であり、口から食事ができない場合は、**経腸栄養 (enteral nutrition: EN)** または、**静脈栄養 (parenteral nutrition: PN)** のどちらかを選択する。

大原則として、腸管が機能しておりENが禁忌の病態ではなく安全確保されればENを選択する<sup>図1)</sup>。

ENはPNに比べ、①腸管粘膜の萎縮予防、②Bacterial translocation 予防、③生理機能 (腸蠕動、消化管ホルモン分泌) の維持、④経済的等の利点があげられる。

PNは腸管の機能障害によりENが不可能な場合や、ENのみでは必要栄養量の充足が困難な場合に選択される。

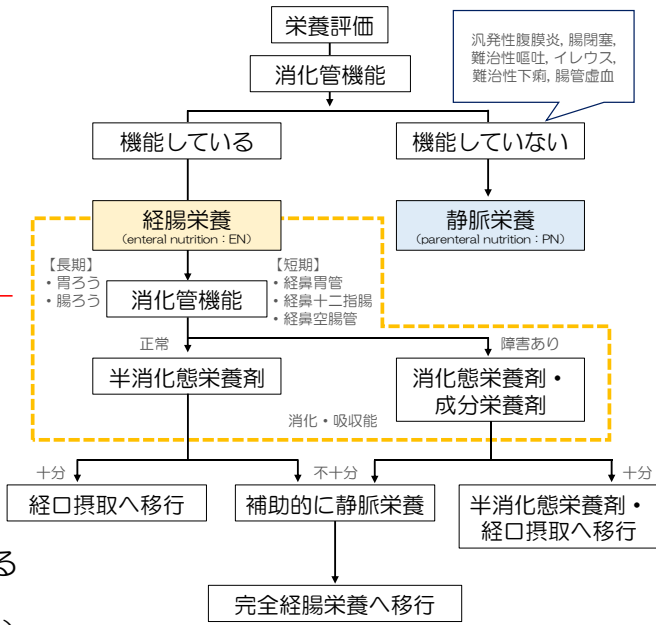


図1) 栄養投与経路選択のアルゴリズム (A.S.P.E.N) 抜粋

経腸栄養剤は、原材料により「**天然濃厚流動食**」、「**人工濃厚流動食**」に分けられるが、現在使用される製剤のほとんどが人工濃厚流動食である。

さらに組成の違いから、**成分栄養剤 (elemental diet)**、**消化態栄養剤 (oligomeric formula)**、**半消化態栄養剤 (polymeric formula)** に分類される。

## 経腸栄養剤の組成上の特徴と一例

- ①**成分栄養剤**  
窒素源がアミノ酸、糖質はデキストリンからなりグルコースや二糖類は含まれない。脂質は大豆油を含むが、エネルギー比率1.5~8.1%であるため、脂肪乳剤の併用により必須脂肪酸欠乏の予防が必要となる。食物繊維は含まれないため低残渣であるが、組成上、高浸透圧となる。
- ②**消化態栄養剤**  
窒素源はアミノ酸やペプチドからなり、たんぱく質は含まれない。小腸においてはアミノ酸より低分子ペプチドの方が吸収が速いことから、吸収障害や周術期などに用いられる。たんぱく質の変性によるカード化を起ささないため、チューブ閉塞も起きにくい。
- ③**半消化態栄養剤**  
窒素源はたんぱく質であり脂質も十分に含まれるが、吸収するには消化の過程が必要となる。製品ごとに配合の違いがあり、病態に応じて選択することも可能。



## お知らせ

昨年までCOVID-19蔓延に伴い、延期していた「**栄養支援ステーション**」を今年度は開催予定です。  
**日時: 2023年11月10日 (金)**  
**時間: 10:00~14:00 (予定)**

当院採用濃厚流動食品・栄養補助食品の一覧は、「約束食事箋: 付録 (付14-15)」に添付していますので、ぜひご活用ください!



文責: 田口雄也 (栄養管理室)

栄養支援ステーションでは、様々な栄養補助食品を用意し、患者さんとその家族に実際に試飲してもらいながら、製品の味や特徴等についてNSTメンバーが直接説明するイベントです。ぜひ、外来・退院予定患者さんを中心にご紹介ください。  
 ※詳細が決定次第、ポスターにてお知らせいたします。試飲は感染状況を鑑みて可否を決定します。